



セイタカアワダチソウ

キク科 アキノキリンソウ属 多年草 北アメリカ原生

図1. セイタカアワダチソウ

(2017年10月22日加江田川撮影)

<風媒花>

セイタカアワダチソウとブタクサは、同じキク科で背丈などが似ているが¹⁾、大きな違いとしてセイタカアワダチソウは風媒花でブタクサは虫媒花である。宮崎大学周辺では、10月中旬から河原や歩道で見られるようになった。養蜂業者が、秋口の蜜源植物として取り入れたものが日本に侵入した原因だ。また、黄色い花をつけるため、園芸用としても導入された。

<化学成分>

セイタカアワダチソウの根は、約50センチの長さがある。そのため土壌を保持する能力が大きい。さらに、“cis-DME” システヒドロマトリアエステルという化学物質を地下茎から放出してほかの植物の成長を阻害する。自らの成長を阻害している。

<葉の特徴>

葉は、披針形で、先が尖り、前縁柄はなく、互い違いに生える(互生)葉の表面には凹凸がありざらつく²⁾



図2. セイタカアワダチソウの花弁

(2017年10月22日加江田川撮影)

<ススキとの競合>

調査を進めていくと、10月末(29日)からセイタカアワダチソウは枯れてススキが多くみられるようになった。また風媒花であるセイタカアワダチソウの花に昆虫が近づいている姿は少ない。また、11月に入るとススキが道端や空き地に多くみられるようになった。

参考文献

1).宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

: <http://www.miyazaki-c.ed.jp/gokase->

2).セイタカアワダチソウ - Y.HADA' S Home Page

<http://had0.big.ous.ac.jp/plantsdic/angiospermae/dicotyledoneae/sympetalae/compositae/seitakaawadachi/seitakaawadachi.htm>